

令和4年度卒業式学位記授与式（令和5年3月18日）

ただいま、学部学科、研究科の代表者に学位記を授与いたしました。鳥取キャンパスの卒業生、修了生が一堂に会して、卒業修了を祝う日を、4年ぶりに本日、ここに迎えられたことは本学にとりまして誠に大きな喜びでございます。

また、卒業生修了生の皆さまはじめ、この日まで温かく支援してこられたご家族、親身になって教育し、指導されてこられた先生がた、そして全ての関係する皆さまが、本日、このめでたい日を迎えられたことに対して、鳥取大学を代表しまして、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

鳥取大学は昭和24年に、鳥取師範学校、鳥取農林専門学校などを前身校として新制国立大学としてスタートし、来年、令和6年に75周年を迎えます。前身校の時代から、地域と一緒に歩みながら、また、地域から支えられながら、これまで数多くの卒業生修了生を輩出してまいりました。皆さまの先輩たちは在学中、皆さまと同様、鳥取大学の基本理念である「知と実践の融合」のもとで、知識を深め理論を身につけ、実践を通して地域だけでなく広く国際社会にも貢献

できる人材となるよう教育を受けて巣立っていきました。皆さまも本日、そのなかのお一人となります。

さて、皆さまは、在学中の学びの中で、あるいは研究の中で、自分だけでできることと、自分だけではできないことがあることを身にしみて理解したことと思います。自分だけでは限界があるかも知れないが、他の人と一緒にやる、いわゆる協働することで、その限界を超えることができます。自分ができない部分を他の人に補ってもらうことで、より大きな成果をあげられます。研究の幅を広げ発展させようと思ったら、分野の異なる研究者との共同研究は欠かせません。仕事の面でも、それぞれが得意な所を分担し連携することで、本当に良い仕事できて成果が上がります。組織や、分野・専門が違っているから、お互いに理解できない、一緒に活動できないではなくて、これからは、組織や、分野・専門が違っているからこそ、一緒に連携し活動すべきで、その方が、成果が上がります。

また、人間というものは自分で自分の活動範囲を決めつけたり、限界を自ら設定したりする傾向がございます。仕事でも研究でも、一度、自分はこの分野が専

門であると決めると、その分野の外側には、なかなか目が向きません。また、手を出しません。自分の分野の少し外側には、もっと面白いテーマや、本来はやるべき大事な仕事が、手つかずで、残っていたりしても、気がつかなかったり、あるいは、気がついていても、気がつかないふりをしたりします。なぜなら、自分の分野の中だけで活動していたほうが、慣れているし、楽だし、効率よく仕事が進むからです。ぜひ、勇気を持って、自分の分野を少し外側に広げてみてください。違う分野専門の人と一緒に仕事をするだけでも、自分の分野を広げることができます。そうすると、もっともっと面白いこと、重要なことに出会えるはずですよ。

また、皆さまが研究を行った際、その研究がその分野で、どのような意味や価値をもつのか、また、行った一つ一つの実験や調査が自分の研究全体の中でどのように関連し、どのような位置づけとなるのか、多くの皆さまは、卒論などの論文を執筆されたときに初めて深く理解できたのではないのでしょうか。論文を書いていて、それぞれの実験や調査の関連性、つながりが良くわかり、追加の実験や調査が必要だと気づくこともあります。時間があれば、追加の実験や調査ができますが、締め切りがあると時間切れで、不完全な論文になってしまうこともあ

ります。研究者として少し経験を積んだ後では、論文を執筆しながら実験をする、調査をすることで、研究の全体像が把握でき、どんな実験や調査を組み合わせて自分の仮説を検証すべきか、あるいは、どんな実験や調査を積み上げれば、説得力をもたせられるのか、わかるようになります。個々の実験や調査に集中する余り、全体像が見えなくなることは往々にしてありますが、自分の研究の意義を考え、自分の研究全体を俯瞰しながら実験や調査の計画を立て、その上で一つ一つの実験や調査を確実に行うことが、研究を進めるうえでは、とても大事です。「全体を俯瞰しながら個々の事柄を確実に進める」、これは、研究だけでなく、どんな仕事においても大変重要なことであります。

さて、現代は VUCA の時代と言われています。この VUCA とは、Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった用語で、想定外の出来事が次々起こるような時代、いままでの常識が非常識になるような、変化の激しい先読みの難しい時代を意味しています。

VUCA の時代を象徴するように、3 年前に突如として新型コロナウイルス感染

症の感染拡大が起きました。その結果、卒業生修了生の皆さまの学生生活のまるまる3年間が自由ではない、行動の制限された3年間となってしまいました。残念な3年間ではありましたが、逆に、この3年間があったからこそ、新たな学びや発見もあったはずです。実際に、このコロナ禍があったお蔭で社会においても新しい見方や価値観が出てきました。私たちが、日常生活を送るにあたって、直接、接することのない、いかに多くの人々に支えられているのかという気づきがありました。身近なところでは、移動して直接会わなくても済むことと、やはり移動して直接会わなければならないことのちがいが明確になり、無駄が省けて生活がスリムになりました。

さらに、コロナ禍に加え、昨年2月にロシアによるウクライナ侵攻が起きました。これらのことから、これまで、グローバル化が進み、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えてすごいスピードで行き交い、世界の国々がそれぞれの得意な分野を分担して経済的に密につながっていた世界が、あっという間に、分断され、経済的な停滞を引き起こしました。特に、資源が少なく、労働力の不足している日本、観光立国でもある日本は大きな影響を受けました。

このように、まさに想定外の事柄が次々起こるのがこの時代の特色です。こう

いった時代を生きるための必要なスキルは、情報収集、情報処理能力と自らの頭で考える力、そして、行動する力だと言われています。卒業生修了生の皆さまには、在学中の学びや体験から、常に学び続ける姿勢や、物事を主観に囚われず客観的に捉え、様々な視点観点から柔軟に考え、適切に判断し行動する姿勢を身につけて頂いたと確信しております。これからは、それぞれがそれぞれの場所で、これまで学んだことをもとに、常に新しい知識・技術を取り入れ、自分の頭で考え実践する努力を続けながら、仕事や研究に一生懸命、取り組んでください。

卒業生修了生の皆さまには、社会の中核となって活躍し、社会を支える人材となつて頂くと同時に、文化や芸術、趣味を楽しめる教養豊かな人、人間性豊かな常識ある人になってほしいと願っております。これからの人生、自分の利益だけを考えるのではなく、常に世のためひとのためということを強く意識して行動し、その結果、社会がよくなり、卒業生修了生の皆さまの人生が実り多き豊かなものになることを心から願ひまして、私からのお祝いの言葉といたします。

令和5年3月18日

鳥取大学長 中島廣光